

● 中国

松本憲治

公共ホールの前向きな芸術振興事業が充実してきている感。地域の実情と芸術文化の今の情勢を把握している地域のプロデューサー、マネージャーなど、音楽スタッフ専門職の充実が課題か。

広島。まず、広島交響楽団。定期演奏会は第336回～345回の10公演。主だった指揮者は音楽監督である秋山和慶、そして下野竜也、イオン・マリン、ドリアン・ウィルソン、大友直人、広上淳一など。2月の福山市の定期公演では、クレメンス・シュルト、7月の呉市での定期公演では飯森範親。秋山和慶は指揮活動50周年記念に当たる年。文化功労者に選出され、また中国文化賞も受賞した。そのほか、広島市と姉妹都市である韓国・大邱市との交流事業として楽団のメンバーが派遣され、公演した。

広島市在住の演奏家によって構成されている広島ウインド・オーケストラの活動がめざましい。音楽監督、指揮者は下野竜也。結成20周年を迎え、4月には東京オペラシティホールにて東京特別記念公演を開催、5月には「浜松バンドクリニック」に招聘され「吹奏楽アカデミー演奏部門」の受賞を果たす。また9月にはCDもリリース。11月には広島文化賞受賞。年二回の定期演奏会。今年には4月に第41回、指揮下野竜也、12月に第42回を、指揮広上淳一。

広島市文化財団、ひろしまオペラ・音楽推進委員会主催のひろしまオペラルネッサンス事業。本公演は9月にオペラ「カルメン」。指揮/佐藤正浩、演出/岩田達宗、管弦楽/広島交響楽団、合唱/広島オペラルネッサンス合唱団。オペラ普及活動として、ミニオペラ「ディドとエネアス」「泥棒とオールドミス」を。

地元オペラ団体のオペラ公演としては、広島オペラアンサンブルが3月に「こうもり」、12月に「愛の妙薬」、広島シティーオペラが3月に「蝶々夫人」を。

また、同委員会のもう一つの事業「現代音楽・クラシック」。現代音楽については、音楽監督の細川俊夫によるHIROSHIMA HAPPY NEW EAR 17が10月に。「大鴉 The Raven - メゾソプラノと12人の奏者のためのモノドラマ」。これはサントリー芸術財団推薦コンサートに。指揮は川瀬賢太郎。演奏はユニテッド・インストゥルメンツ・オブ・ルシリン。同じく18では、ミンゲット弦楽四重奏団による演奏で、武満徹「弦楽四重奏のためのランドスケープ」や細川俊夫「開花」など。また音楽監督伴谷見二で「東アジア音楽祭2014inヒロシマ」が10月に。これは、「～日中韓の友好と親善コンサート〈伝統と現代の響奏〉」と題され、レクチャーや現代室内楽作品、伝統音楽コンサートなど。「クラシック」では、主に広響のメンバーや、広島市内在住でめざましい活動をしている演奏家たちによる室内アンサンブルコンサート。そのほか、研修事業も。

「年末恒例」の第九。1985年に第一回を開催した「第九ひろしま」/中国放送主催、は今年30回を迎えた。広島では第九はこの公演のみに。指揮は初めて広島交響楽団音楽監督の秋山和慶。合唱は1700人、観客も4000人近くとなり、広島の年末恒例イベントとしての定着と同時に、民間企業によるクラシックフ

ァン、芸術文化普及の功績は大きい。

岡山。毎年の岡山国際音楽祭が9月末～10月中旬に。さまざまなジャンルの公演の中で「中国・四国の作曲家2014」が10月に。現代室内楽作品の演奏のほか、「岡山から発信する新しいこどもの歌」として、小学生の詩に作曲した作品を発表。その他、街角コンサート「大好きクラシック」など華やかに。

プロのオケとして活動を始めた岡山フィルハーモニック管弦楽団。1月第43回定期演奏会。指揮山下一史で「オペラガラ」。地元中国二期会の歌手と。6月に第44回定期演奏会。指揮宮田大。ドボルザークプログラム。10月に第45回定期演奏会。指揮ハンスイェルク・シェレンベルガー。シューベルト「未完成」やブラームスの一番など。

オペラでは、まず老舗中国二期会が創立40周年記念オペラガラコンサートを岡山フィルハーモニーと。そのほかさまざまなオペラ制作の胎動が。まず「オペラプラザ岡山」という団体が、これは2015年1月公演に向けオペラ「カルメン」を制作開始。市民参加型オペラ。同じく「市民参加によるオペラ」として、未来オペラ集団「トロヴァトーリ岡山」という団体が、9月に公演。総合企画/演出は松井和彦。演目は「オペラパフォーマンズ」として、市民参加による構成オペラ場面集など。岡山室内オペラ（作陽音楽大学系）も構想在で、研究発表会を11月に。音楽監督はフォルカー・レニッケ。

山口。秋吉台芸術村での現代音楽セミナー「秋吉台の夏」が8月に。講師として作曲家の湯浅譲二・田中吉史・徳永崇・鈴木治行・成本理香、作曲・指揮の杉山洋一。また招待作曲家：木下正道・今井智景などが。マスタークラス講習、レクチャー「自作を語る」、ワークショップとして自作指揮、実践レッスン、受講生コンサートなど。県内外から受講生は延べ300人程度。また秋吉台コンクールが4月30日～5月2日に。コントラバス部門と室内楽部門。

山口県芸術文化ホール・ルネッサ長門では山口県総合文化祭の一環で「詩と音楽のフェスティバル」を開催。山口ゆかりの中原中也、金子みすゞ、まどみちおの世界を朗読と独唱、合唱などで。岩国シンフォニアでは、合唱作品初演演奏会が4月に。指揮・田中信昭で名倉明子「まざあ・ぐうす～無伴奏混声合唱のために～」の初演など。オペラでは、山口室内オペラ工房（浜田嘉生主宰）第16回公演が9月に。「あまんじゃくとうりこ姫」「ハイドン/薬剤師」

鳥根。鳥根県芸術文化センター・グラントワのいわみ芸術劇場では、15年2月に開催される、いわみ発創作オペラ「ヒト・マル」の制作が佳境に。この創作オペラは石見を題材に脚本加藤直、作曲・寺島睦也、プロデューサー・栗山文昭で。また、劇場合唱団である「石見合唱塾」が1月にグラントワ合唱祭を。指導・指揮は栗山文昭。石見のわらべ唄と三善見作品。

その他、公益財団法人「出雲芸術アカデミー」（名誉顧問/大植英次）による出雲フィルハーモニー交響楽団を主体にしたさまざまな事業。1月にうたなかまコンサート、4月にファミリーコンサート、7月に山陰フィルの第18回定期演奏会やオーケストラセミナー2014を開催するなど活発。

鳥取では、ミュージックテアター・TOTTORIというオペラ団体の公演が、8月にとりぎん文化会館梨花ホールで「エフゲニーオネーギン」全幕を。演出は宮永あやみ、指揮は高野秀峰、鳥取市交響楽団、合唱はミュージックテアター合唱団。地元出身でヨーロッパで活躍している歌手を中心にしたキャスト。倉吉市を中心に活動している鳥取オペラ協会では、在住の演奏者を主体に、6月に「アマールと夜の訪問者」、8月に「魔笛おもしろ講座」を開催。